トマトにおける微生物農薬を活用した
コナジラミ類およびトマト黄化葉巻病防除の推進

1　普及活動のねらい

コナジラミ類はトマトにおいて、吸汁のほか黄化葉巻病の伝搬など大きな被害を引きおこしているが、薬剤感受性低下により防除が困難となっている。

微生物農薬「ボタニガード水和剤」は、薬剤感受性低下のリスクが小さいこと、使用回数に制限がないこと、トマト・ミニトマトにおいては、暖房機ダクトに剤をそのまま投入して送風と共に散布できるダクト内投入といった省力的な処理方法があることから、効果的な活用に向けて支援してきた。また、同剤は、ブロアー等の散粉機を用いて粉状のまま散布する登録もあり、岐阜県の夏秋トマト産地等において、微生物農薬の粉剤の混合散布での省力的な防除での効果が報告されている。

管内はトマトの栽培方式、作型や作型が様々で、コナジラミ類防除の改善については生産者の関心も高い。産地条件に合わせた微生物農薬活用の組み立てを進める必要がある。

2　普及活動の成果

「ボタニガード水和剤」について、主にコナジラミ類の飛び込みの少ない時期の省力的な防除として、ダクト内投入による活用が進んだ。

ベッド下に常設された送風ダクトで、定植後から微生物農薬のダクト内投入を開始し、コナジラミ類発生スポットへ、補足的にブロアーによる散布を行ったほ場では、コナジラミ類、トマト黄化葉巻病とも防除効果が高く、省力効果についても高く評価された。

3　普及活動の内容

微生物農薬の特性や使い方について、これまでの実証結果も踏まえ、折に触れて説明を行うとともに、使用ほ場に合わせた助言を行った。

ブロアーによる散布も含め、処理時期や散布方法の異なる複数の試験ほを設置し、体系的な組立てに向けて検討を支援した。



写真　ブロアーを用いた散布

重点課題名 普及事項名	3　スマート農業技術の活用による野菜産地の育成 （3）　トマトの短期作型における微生物農薬を活用したコナジラミ類防除の改善